

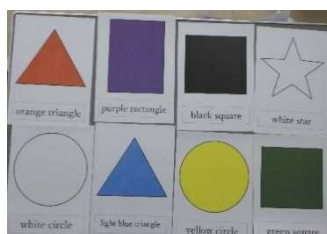
チャレンジ学級 「Let's Try 1 Unit 3 How many?
Unit 4 I like blue.
Unit 7 This is for you.」

1. 授業の実践記録

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

【分かりやすい教材の工夫】

児童が期待感をもてる活動や教材（カードなど）を準備することで、主体的にコミュニケーションをとれるようにした。



色や形

歌やチャンツに加え、学習する単元の単語を掲示して学習した。どこからでも見えるようにすることで安心して取り組めるようにした。

色や形のちがうカードでカルタゲーム

1回戦→○のみ 2回戦→☆のみ
など同じ形で行ったあと、色と形を混ぜて行った。

自分だけのクリスマスツリー制作

繰り返し学習した、色や形・数の表現を使い、自分の好きなシールを集めて、クリスマスツリーを作成した。

(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

【相手意識をもった学習形態の工夫】

グループ活動をすることで相手意識をもった活動となるよう工夫した。グループの友達と協力して答えを出す、高学年が低学年を助けることでゲームに勝てる、などやりとりや関わりを増やすようにした。



(3) 英語に慣れ親しみ、学ぶ楽しさを実現するための工夫（仮説3）

【英語に慣れ親しむための工夫】

毎回 ALT とのあいさつを丁寧に行うことで、英語表現に慣れ親しむきっかけを作るようにした。



2. 指導の結果と考察 ○成果 ●課題

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

○絵カードやシール，ワークシートなどを見て学習意欲を高めることができた。事前準備により，（色塗りの完成）シールをもらうためのコミュニケーションの活動時間が増え期待感をもって参加できた。

●シールを5人の教員全員で配ったため，全体の活動の様子を把握することが難しかった。T.Tの役割分担の工夫ができるとより効果的であったと思う。

(2) 相手のことを考えて，自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

○勝ち負けをチームで共有することで，チームの友達を意識して自分の思いや考えを表現することができていた。

○異学年集団の良さを生かし，上学年が下学年をフォローしながら活動を進めることができた。

(3) 英語に慣れ親しみ，学ぶ楽しさを実現するための工夫（仮説3）

○毎回同じ表現を全員が聞くことができたため，新しいことに不安がある児童にとっては，繰り返すことでの安心感が得られる活動になった。

●授業開始と終了のあいさつが型通りになり，ALTの発音を聞いて，同じように復唱する活動になる側面がある。主体的に発言する児童が特定されてしまうことが多いので，より多くの児童が参加したくなるような雰囲気を作ったり，工夫をしたりするとよいと思われる。